

胆道・膵疾患の治療成績・長期予後に関する研究

【対象となる方】

1992年4月1日以降から当院消化器内科において胆道・膵疾患（炎症性疾患、結石、先天奇形、ポリープ、嚢胞、腫瘍（胆道閉塞をきたす他臓器癌を含む））について診断および治療のため診療を受けた方。

【研究の意義】

胆道・膵臓における炎症（胆嚢炎、胆管炎、膵炎など）はまれに重症化し生命の危険に直結することがあるが、重症化・再燃などの要因やその発生頻度は明らかではありません。また、先天奇形（胆管膵管合流異常、膵管癒合不全など）や慢性炎症が発がんに関与することが知られているが、長期予後に関する報告も多くありません。Intraductal papillary mucinous neoplasm を初めとした膵嚢胞性病変や胆嚢ポリープなどはしばしば良悪性の鑑別が難しく、またその発癌に関与する因子や発癌率に関しては明らかにされておられません。さらに、胆道・膵臓の悪性腫瘍は発癌高危険因子が設定できず早期発見が困難であり、また治療法が導入されてきたにもかかわらず予後は依然として不良なのが現状です。そのため胆道・膵疾患について、早期成績および長期予後の観点から検査・治療手技の有効性、安全性（早期偶発症）、経過（長期予後、特に再発と発癌）を多施設でデータを収集することにより、明らかにすることができると考えられます。

【研究の目的】

胆道・膵疾患について、早期成績および長期予後の観点から検査・治療手技の有効性、安全性（早期偶発症）、経過（長期予後、特に再発と発癌）を評価し、学術的評価を確立することを目的とする。

【研究の方法】

この研究は、厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」を守り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでの診療でカルテに記録されている血液検査や画像検査、病理検査などのデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担頂くことはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用して欲しくない場合は主治医にお伝えください。ご連絡を頂かなかつた場合、ご了承頂いたものとさせていただきます。

【個人情報の保護】

この研究に関わる成果は、他の関係する方々に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。あなたの人体試料や情報・データは、分析する前に氏名・住所・生年月日などの個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において厳重に保管します。ただし、必要な場合には、当研究室においてこの符号を元の氏名などに戻す操作を行います。

【研究結果の公表】

研究の成果は、あなたの氏名など個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌及びデータベース上で公表します。また御希望があれば研究データを統計データとしてまとめたものを開示致します。

平成 25 年 12 月 16 日

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学部附属病院

消化器内科

講師：多田 稔

住所：東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-3815-5411（内線：37195） FAX：03-3814-0021

Eメールでのお問い合わせ：tada-2im@h.u-tokyo.ac.jp

医療機関名：東京大学医学部附属病院

診療科名 消化器内科 診療科責任者名 小池 和彦